



TITLE:

[12月23日 コメントと討議] 質疑応答

AUTHOR(S):

山本, 博之; ヘンドラ; ペピ ヌグラハ; ヤルメン ディ
ナミカ; #ja:4

CITATION:

山本, 博之 ...[et al]. [12月23日 コメントと討議] 質疑応答. CIAS discussion paper No.25 : 災害遺産と創造的復興 : 地域情報学の知見を活用して 2012, 25: 117-120

ISSUE DATE:

2012-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/228496>

RIGHT:

© Center for Integrated Area Studies (CIAS), Kyoto University

質疑応答

山本博之 ペピさん、ヤルメンさんお二人にそれぞれ質問があります。

■ 災害時における読者コメント欄の重要性と記事にタグ情報を入れる可能性

山本 まずペピさん、Kompas.comについてのお話をありがとうございました。Kompas.comの重要性の一つは読者からのコメントがオンライン上に即時に掲載される点にあり、そのことには私たちも以前から注目していました。その重要性を特に認識したのは2009年9月のタシクマラヤ地震のときでした。

そのときは、地震が起こったこと自体は気象庁の情報として「何月何日、どこで地震が起こった」と報じられましたが、被災地が内陸部だったこともあり、行政や報道の人たちが被災地に行くまでに2、3時間かかり、それまでは実際に現場でどのような被害が出ているかがわかりませんでした。

ところが、最初に1本、気象庁からの情報がKompas.comに掲載されていたので、現地で携帯電話を持っている人たちがそれぞれの地域でどのような被害があるかをショートメッセージで送って、Kompas.comの地震の記事にコメントとしてつけていきました。そのコメントを見ることで、第二報が出るまでに被害の状況が大掴みながらも把握できたことがありました。その意味で、Kompas.comの読者からのコメント欄は非常時に実際に役に立つ仕組みであり、とても重要なものだと思っています。

ペピさんも紹介していただきましたが、Kompas.comでは、大きな災害が起こるとトップページにバナーを作って、その災害に関する記事が全部集められているページが作られるので便利ですが、小さな災害は特別なページが作られません。ところが私たちは小さな災害も重要だと思っているので、その情報を調べようと思うと、Kompas.comのアーカイブのページを毎日見ても「災害」や「地震」といったキーワードで検索しています。それでも、災害に関する記事のすべて

に「災害」といった単語が含まれているとは限らないため、集めた情報に漏れがないか心配しています。

そこでお伺いしたいのですが、Kompas.comの記事に、災害だったら「災害」という決まったタグをつけて発信していただければ、私たちはその情報を効率よく受け取ることができます。このようなことは可能でしょうか。

また、記事を読んでも、現地の地名になじみがないと、それがどこの場所で起こっているかわかりにくいことがあります。そこで、記事を掲載するときに、その記事がどの場所の記事なのか、緯度と経度をタグに入れて発信していただけるとよいのではないかと思います。そのようなことが可能であるかをお伺いしたいと思います。

■ スランビ社では過去の記事をどのように蓄積しているのか

山本 次にスランビ・インドネシアについてヤルメンさんに質問します。2004年に津波が起こったとき、私たちは国外にいたため、アチェがどうなっているのかはインターネットを通じてしか知ることができませんでした。

そこでスランビ・インドネシアのインターネットのページを見たのですが、災害が起こった12月26日の午前7時47分の記事で更新が止まっていました。それでとても心配だった気持ちを思い出しました。今日お話を伺って、スランビ社ではとても多くの方が津波の犠牲になってたいへんな状況だったことがわかりました。スランビ社のインターネットのページに関しては、それから18日後の1月23日には更新が再開されたので一安心したことを憶えています。

その後、アチェの復興が進むにつれて、スランビ・インドネシア以外の新聞が発行されるようになり、新聞が増えてきました。しかしそのなかでも、津波前からの長い歴史をもつスランビ・インドネシアは、「スランビ・インドネシア」すなわち「インドネシアのベランダ」という名前にふさわしく、気軽にそこを訪れて腰をおろし、おしゃべりしながらアチェあるいはインドネシアの最新の情報を知るのに適した有効なメディアだと現在でも思っています。

このように、地方紙はその地方のさまざまな情報を報じてきた蓄積がありますが、そのような過去の蓄積を利用することは大切だと思います。そのため、スランビ社では、これまでの記事をどう蓄積しているのか、クリッピングしているのかデジタル化しているのか、

それとも特に蓄積していないのかをお伺いしたいと思います。

また、スランビ社ではラジオを含めてさまざまなメディアの展開を試みているというお話がありましたが、ラジオ放送の情報をどのように記録しているのかについても教えていただければと思います。

■ 研究機関とメディアが より深く連携する方策はないか

ヘンドラ (TDMRC) コンパス社について質問します。先ほど山本さんから話があったように、災害の大小の規模の違いはその現場の人にとってはあまり違いがありません。しかし、災害が起こっても、同じときに関心をひくゴシップ記事や大事件があったりすると、災害の記事は目立たなくなってしまうように思います。大勢の人の関心をひく記事だけを重視するのではなく、ある人びとにとってはとても重要な情報が含まれている記事が掲載されることが必要だと思います。そのことについてどうお考えでしょうか。

また、私たちのような研究機関とメディアがより深く連携できないでしょうか。日ごろから情報を交換することについても私たちにはその準備があります。

スランビ社のヤルメンさんに対しては、私たちの研究センターで作っている情報システムを記者の人たちがもっと積極的に利用してくれればと思います。新聞社の一人ひとりの記者をみたときに、災害に関する基本的な情報はまだまだ充分でないように思います。それを補助するという目的でシステムを作っていま

すので、ぜひ私たちの情報検索の仕組みを活用してほしいと思います。

記者がきちんとした知識をもっていなければ、新聞報道も客観的な知識に裏づけられないまま行われ、肝心の情報を知らされない住民はいざ災害となったときに大きな被害を受けます。社会のメディアとしての新聞の役割は重要だと思います。

■ 記事にキーワードやタグ、 GIS 情報を付与することの有用性

ペピ・ヌグラハ コメント欄についての山本さんのご指摘はまったくそのとおりです。私も1年ほど前からコメント欄が非常に重要だと考えて、内容の検閲をせずにそのままコメントを流すようにしています。タシクマラヤ地震については、私自身その地域の出身で、地震の直後には電話などをして被災地の人びとのようすを確かめたりしたことを思い出しました。

山本さんからの二点目の質問についてですが、地震の記事であるとわかるようにタグやなんらかのキーワードをつけるというご提案をたいへん興味深く聞きました。ぜひ真剣に考えたいと思います。

また、ヘンドラさんからの質問に関して、読者である研究者や研究機関からの情報を受けとって、それを積極的に流すことも確かに有効だと思います。

山本さんからの三つめの質問については、私たちも非常に興味をもっています。以前、日本の方から Kompas.com の記事に GIS 情報をつけたらどうかという申し出がありました。いま思い出してみると、それ



女子学生からも多くの質問が出された



研究機関とメディアの連携について質問するTDMRCのヘンドラ氏

は山本さんたちだったような気がします。

私たちはそのことに興味をもって、ただGIS情報をつけるだけでなく、GIS情報をつけた記事が地図上でうまく表現できるソフトウェアがあれば私たちもぜひ使いたいと思っています。Google MapだとKomaps.com社の外にあるシステムなので充分に使いこなせません。Kompas.comのウェブサイト上で展開できる地図システムがあればと以前から思っていたので、もしそのようなソフトウェアをご存知だったらぜひ紹介していただきたいと思います。

ヘンドラさんのご質問の、どの記事をどのように扱うのかに関しては、私たちは基本的に事件に優先順位をつけませんが、記者がそれぞれの記事を書くときに優先順位が出てきてしまうのは仕方ないところだと思っています。

例えば、死者が出ない災害があまり大きく報じられないことは事実としてあります。けれども、私たちが特に重要だと考えているのは、「何をすべきか」という人びとの思いに適切な回答を与えることだと思い、そのような誌面作りを心がけています。

■ スランビ社の災害記事をデータベース化するプロジェクトがスタート

ヤルメン・ディナミカ 山本さんのご指摘の通り、確かに12月26日は被災の直前まで私たちは活動していて、オンライン情報も機能していました。1月23日にウェブ上で復活したことも、たしかにそうだったなと思い出します。実はオンラインの方が後から復活したわけで、紙で印刷する新聞はその2週間前に発行を再開していました。

私たちもスランビ・インドネシアがアチェで歴史を

有していることに誇りをもっています。来年の2月でスランビ社は23年目を迎えます。アチェで最初の新聞社として、そして発行20年を超えた初めての新聞社として、私たちは今後も誇りをもって活動したいと思っています。

スランビ社は、地方紙として災害に関する報道を積極的に行なってきました。体感できる地震はどんなに小さなものでも報じてきましたし、人が亡くなるなど人的被害が出たものは必ず一面で扱ってきました。スランビ社の新聞記事には、災害に関する情報がたくさん蓄積されているといえます。

データベース化については、以前、津波防災研究センターを訪問していろいろと相談したことを憶えています。私たちのもっている新聞記事をすべてデジタル化するプロジェクトもすでに始まっています。うまくデジタル化されると、何らかのかたちでデータベースに組みこまれるのではないかと期待しています。

また、私どもはラジオ局を3年前から運営しています。これはリアルタイムの報道のためで、30分おきにニュースを流しています。全体の2割がエンターテインメントで、残りが報道となっています。

ラジオ放送用の原稿については、ラジオ放送専門の記者を数十名確保しています。その人たちから送られてくる情報が報道されます。また、読みあげられた原稿はすべて保存されていて、もとの原稿にもインターネット上でアクセスできます。

■ 防災情報の共有と提供する情報の選別

ヤルメン・ディナミカ ヘンドラさんからご指摘があった、防災に関するいろいろな情報を共有しようという動きに対しては、私たちも賛成です。専門機関からの情報について私たちはいつも関心をもって、例えば気象庁の情報を私たちは毎日チェックしています。それを見て、人びとの生活に影響があると思われる情報は、わかりしだい掲載するようにしています。

情報の選別については、私たちは毎日夕方に会議を開いてどのメディアを使ってどの記事を配信するか判断しています。新聞に載せるのかラジオで放送するのか、あるいは特別紙に載せるのかといったことです。

すべての記事は、影響力の大小にかかわらず必ずオンライン版にも載せるようにしています。というのも、Kompas.comとの連携の関係で、スランビ社はオンライン上の記事を1時間に10件は必ず更新しなければいけないためです。そのうち8本はアチェに関する

もの、2本はアチェ以外のスマトラ地域に関するものという条件があります。

記者たちが記事を書くときにデータベースを活用してほしいというお話もありました。日々の報道に関してはなかなか難しいところがあると思いますが、私たちはTDMRCをはじめとする研究・教育機関の役割とは情報をきちんと蓄積することにあると思っています。蓄積された情報は、私たちが状況を分析したり、

社説を書いたりするときに活用しています。その意味では、研究センターや教育センターが記事を充分蓄積していることは私たちにも喜ばしいことだと思っています。

私たちも報道に関わる者として社会に対する役割を充分に意識しているつもりです。ペンを通じて人びとのよりよい生き方ができるように貢献していきたいと思っています。